

札幌市立山の手南小学校の取組

1. 研究のねらい

本校ではこれまで「山の手南小学校『雪学カリキュラム』」を策定し、全学年で雪に関する学習を進めてきている。平成 21 年度からの「札幌らしい特色ある学校教育」の取組開始より積み重ねている生活科・総合的な学習の時間を活用しての「雪」に関する実践の整理、カリキュラム化に加えて、特別活動や、休み時間での取組、地域・関係諸機関との連携、外部人材の活用など、教育課程全体で「雪にかかわる取組」を進めることができた。その一方、研究を進めていく中で冬期間、休み時間の外遊びが少ないことも課題として浮き彫りになってきた。

以上の実態を踏まえ、今年度の研究のねらいを以下の 3 点とし、重点的に取り組んだ。

1. 山の手南小学校「雪学」の深化・継承
2. 地域・関係諸機関との連携
3. 雪を活用した体力向上の取組

2. 取組内容

(1) 山の手南『雪学』の深化継承

山の手南小学校の「雪学カリキュラム」の深化継承をねらいとして、今年度も取り組んだ。各学年の取組は、総合的な学習の時間のカリキュラムの中に位置付いているため、今年度もしっかりと受け継いだ。

実施学年	単元名	活動内容（実施教科等）
1 年 さくらルーム	「ふゆとなかよし」	草笛公園での活動（生活科）
2 年	「スノーフェスティバル」	グラウンドにワンダーランド（生活科）
3 年	「山の手南雪あかりの路」	玄関前をキャンドルでライトアップ（総合）
4 年	「雪HOT COM.」	雪と暮らすおはなし発表会に出品（総合）
5 年	「すごいぞ雪の活用法」	雪と暮らすお話発表会でプレゼン発表（総合）
6 年	「山の手南に奉仕し隊」	卒業ボランティアとの連動（特活）

活動にかかわって、雪対策室から必要資材の支援もいただきながら取り組むことができたことも大変ありがたかった。

活動の中からいくつかの活動を紹介していく。

① 1 年、さくらルーム「ふゆとなかよし」・2 年「スノーフェスティバル」

1 年生、さくらルームの「ふゆとなかよし」では学校の近くの草笛公園で、自分たちの雪を使った遊び方を考案。穴を掘ったり、そりで遊んだりして、雪を楽しむ活動を行った。



2年生の「スノーフェスティバル」ではグラウンドに思い思いのワンダーランドを作り、1年生を招待して一緒に遊んだ。今年度新しく作ったそり山の周りにワンダーランドの建設をして、穴に入ったり、きれいに色をつけて飾ったりして楽しんだ。



②3年 「山の手南雪あかりの路」

地域で毎年期待していただいているイベントとなり、今年度も2月18日に実施した。今年度は本事業の予算で塩ビ管、ゴム手袋・ビニル手袋を購入し、スノーキャンドルを作りやすい方法で制作した。

また、雪対策室より今年度もスノーキャンドル250個を御支援いただいた。地域でも楽しみにしていただき、たくさんの方にお楽しみいただいた。



～雪かき・汗かきチャレンジとの連動

今年度札幌市雪対策室、札幌市西区土木センターのご協力により、スノープッシャー5本、雪かきスコップ5本を貸与していただいている。

6 年生が特別活動の一環として、学校の玄関前の除雪や、学校前の通学路の除雪、地域のゴミステーション周りの除雪等地域への奉仕活動も含めた取組を計画し、札幌市教育委員会が推進する「雪かき・汗かきチャレンジ」と連動しながら実施してきた。



(2) 地域・関係諸機関との連携

① 4 年 社会科 札幌市の除雪 「除雪車試乗体験会」平成26年12月22日(月)

4 年生の社会科の学習の一環として、除雪車の試乗体験会を西区土木部、大成ロテックのご協力をいただき、今年度も開催することができた。

体験会当日は大雪の中、一人一人除雪車に乗せていただき、視界の悪さや、寒い中で

の作業を実際に体験することができた。学習した内容を自分の目で見て、体験することで、子どもの興味・関心が一層 広がるような体験会になった。



② 5年 理科 雪を降らせる天気 北海道教育大学教授 高橋教授特別授業

(北海道雪プロジェクト代表) 2015年2月4日(水)

5年生の理科において、「天気の変化～冬の天気」の一環として「雪を降らせる天気」についての学習を2月に行った。



～主な学習活動～

- 気象衛星の雲の動きの動画
- 雪を降らせる様子の説明
- 人工雪の成長の様子
- 雪の結晶の描き方
- 雪の結晶の種類と気温によってできる結晶の違い

③ 4 年・5 年「雪と暮らすおはなし発表会」への参加

今年度、4 年生、5 年生が総合的な学習の時間のまとめとして、「雪と暮らすおはなし発表会」に参加した。4 年生は B 部門との展示発表部門への参加、5 年生は A 部門のプレゼンテーション部門への参加をした。



(3) 体力向上へ向けた取組

研究を進めていく中で、休み時間の外遊びが少ないことも課題として浮き彫りになってきた。体力向上の面から見てもこの「外遊びの機会を増やす」事を課題としてとらえ、本校が取り組んでいる『体力向上』の取組と合わせて研究を深めたいと考え、今年度の重点的な取組として設定した。

本校は校区内の排雪をグラウンドに搬入しており、その排雪を使ってスキー山を造成してもらっている。今年度は、スキー山造成をお願いしている業者にスキー山の他にもう一つ「そり滑り専用」の小規模なそり山を作ってもらい、運動時間を増やすことを目的に取り組み、中休みの今年度の実践校予算で購入したプラスチックそりとプラスチック丸そりを活用して、中休み、昼休みの外遊びの人数を増やす取組を計画している。





3. 成果と課題

成果

- 継続して「山の手南小学校雪学」に取り組んでいるので、特別な取組をしているという意識ではなく、毎年、当たり前に行う活動へと一般化することができている。
- また、今年度も関係諸機関や、研究者、地域等との連携を深めながら実践に取り組むことができた。
札幌らしい特色ある「雪」の学習は、地域、関係諸機関、専門家等との連携で学びが深まり、実感の伴った理解になることが再認識された。
- 今年度重点的に取り組んだ外遊びを増やすための取組については、スキー山とは別にそり山の造成をお願いしたことが有効であった。

課題

- 今年度の最重要テーマである、体力向上に向けての外遊びの増加、励行についてはまだまだこれから取組を続けていくことが必要だと考えている。
全国体力・運動能力調査の結果から見ても総運動量をまだまだ増やしていく必要があることがデータからも読み取れる。雪とふれあうことを楽しみながらも、運動量を増やしていく具体的な手立てを今後も考えて行きたい。